



故海軍大將末次信正銀杯下賜ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年一月三日

内閣總理大臣小磯國昭



内閣

第六六八號 三〇日

昭和二十年一月二日 内閣書記官長 印

内閣總理大臣 印

賞勳局總裁 印

故海軍大將勲一等末次信正、明治三十四年海軍少尉ニ出身以來累進シテ昭和九年海軍大將ニ任セラレ同十二年十月豫備役仰付ケラルル迄軍務ヲ奉スルコト三十有六年其ノ間第一潜水戦隊司令官、海軍省教育局長、海軍軍令部次長、舞鶴要港部司令官、

賞勳局

第二艦隊司令長官、聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官、軍事參議官等ヲ歴任シ、殊ニワシントン會議ニ際シテハ全權隨員トシテ海軍首席委員ヲ佐ケ其ノ職責ヲ竭シ、ロンドン會議ニ於ケル兵力量決定問題ニ付テハ海軍軍令部次長トシテ獻策ニ努ムル所アリ、其ノ後聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官トシテ克ク麾下艦隊ヲ指揮掌握シテ訓練ニ

4
217.2
付受

盡瘁スル等帝國海軍、進展ニ寄與シタル
功績大ナルモアリ、次イテ昭和十二年十二月内
務大臣ニ任セラレ爾來在任一年餘重要國務
ノ樞機ニ參畫シ忠誠恪勤補弼、重責ヲ竭ス
ト共ニ所部ノ官吏ヲ統督シ内務行政、運營ニ
カヲ致シタル功績亦尠カラズ其ノ他内閣參議
及内閣顧問ヲ仰付ケラレテ重要國務、筆
畫ニ參與シ其ノ職責ヲ盡ス等功績顯著、
者ニ候處昭和十九年十二月二十九日死去致候
趣ニ付此際特ニ同日附ヲ以テ銀杯一組(第五號)
ヲ下賜セラレ度此段允裁ヲ仰ク

内閣

内閣人閣勲第三〇四號

昭和二十年一月二日

内閣書記官長 田中武雄

賞勲局總裁 瀨古保次 殿

申 牒

海軍大將勲三等末次信正ハ昭和十九年十二月二十九日死去、
處同人ハ別紙功績調書ノ通多年邦家ノ為ニ盡瘁
シタル功績顯著ナル者ニ付特ニ生前ノ功勞ヲ録セラレ賜杯儀詮議相成度
別紙履歷止書添附ス

内閣

裏面白紙

功績調書

故内閣顧問海軍大將從二位勲一等末次信正

右者明治三十四年一月、海軍少尉ニ出身以來、累進シテ、昭和九年、海軍大將ニ任ゼラレ、同十二年十月豫備役仰付ケラルル迄、軍務ヲ奉ズルコト三十有六年、其ノ間、第一潜水戦隊司令官、海軍省教育局長、海軍軍令部次長、舞鶴要港部司令官、第二艦隊司令長官、聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官、軍事参議官等ヲ歴任シ、殊ニ、ワシントンニ會議ニ加藤海軍大將ノ下ニ隨員トシテ派遣セラレ、克ク全權委員ヲ輔佐シ、其ノ職責ヲ竭シ、又ロンドンニ會議ニ於ケル兵力量決定問題ニ付テハ、海

内閣

軍軍令部次長トシテ之レヲ献策ニ努ムル所アリ、又聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官ニ親補セラレ、海ノ護リノ完璧ニ盡ス等多年、皇軍ノ進展ニ寄與シタル功績大ナルモノアリ。次イテ、昭和十二年十二月近衛第一次内閣ニ内務大臣トシテ台閣ニ列シ、支那事變下ニ於ケル國務大臣トシテ重要國務ノ樞機ニ參畫シ忠誠恪勤補弼ノ重責ヲ竭セシメナラス、所管大臣トシテ所部ノ官吏ヲ統督シ内務行政ノ運営ニ力ヲ效シタル功績亦尠カラス。尚内閣参議ヲ仰付ラレ支那事變ニ關スル重要國務ノ籌畫ニ參與シ又内閣顧問仰付ラレテ内閣總理大臣、政務運営ノ樞機ニ參シ、就モ其ノ職責ヲ盡ス等終始一貫邦家ニ為ニ貢獻シタル功績定ニ顯著ナリトス。

(竹田節)

裏面白紙

官房人機密第一號

昭和二十年一月二日

内閣總理大臣殿

海軍大臣



(花輪納)

上奏書ノ件進達

故海軍大將末次信正ニ對スル賜杯ニ關スル別紙上奏書進達致候

(別紙上奏書添)

(終)

海軍

右者明治三十四年海軍出身以來軍職ニ身ヲ奉ズルコト實ニ三十七年其ノ間
海軍軍令部參謀英國大使館附武官輔佐官・海軍大學校教官・第一艦隊參謀
筑摩艦長・海軍軍令部參謀兼大學校教官・華府會議全權委員隨員第一潜水
戰隊司令官・海軍省教育局長・海軍軍令部次長・舞鶴要港部司令官・第二
艦隊司令官・聯合艦隊司令官兼第一艦隊司令官・橫須賀鎮守府司令
長官・軍事參議官・議定官等ノ要職ヲ歷任シ終始一貫奉公盡忠ノ至誠ヲ効
シ其ノ功績偉大ナリ其ノ主ナルモノヲ摘記スルニ明治四十三年夙ニ艦隊決
戰ノ根幹ハ主力艦ノ主體ニ在リ且ツ主體ノ威力發揮ハ之ガ砲裝ノ劇明的様
式ニ在ルコトニ着眼シ列國ニ魁ケ主力艦主體ヲ艦體ノ中心線トシニ集中搭載
スベキヲ主張シ帝國海軍主力艦兵裝計畫ニ關シ多大ノ貢獻ヲ爲セリ又數次
ニ亘リ海軍大學校及海軍砲術學校教官ヲ拜命シ戰術思想ヲ育成統一シ其ノ
蓄ニ依リ學生ヲ誘掖指導シ帝國海軍高級士官ノ戰術思想ヲ育成統一シ其ノ
偉大ナル德望ト相俟ツテ後進士官ノ敬慕シテ已マザル所ナリ大正十年華府

會議ニ際シテハ全權隨員トシテ海軍首席委員ヲ佐ケ日夜碎囑國際會議場ニ
在リテ畫策適切克ク全權輔佐ニ努メタル功績ハ極メテ大ナリ昭和五年倫敦
軍縮會議ニ際シテハ海軍軍令部次長トシテ軍令部長ヲ援ケ國防用兵ノ準規
ニ基キ幾多ノ困難ヲ排除シテ海軍軍備ノ完璧ニ盡セル努力ト其ノ功績ハ
顯著ナリ其ノ後第二艦隊司令官及聯合艦隊司令官兼第一艦隊司令官
トシテハ上海事變直後ニ於ケル國際情勢裡ニ處シテ麾下艦隊ヲ克ク指揮軍
艦シテ教育訓練ニ盡瘁シ艦隊將兵ノ術力ヲ煥發ニ同トシ全世界ニ帝國艦隊
ノ嚴然タル存立ヲ顯示シテ帝國ノ時局處理ヲ有利ナラシメタル功績尠ラズ
橫須賀鎮守府司令官トシテハ現代戰鬪ノ様相ヲ察シテ出帥準備ノ元鑒ヲ
明シ帝國海軍ノ兵器彈藥ノ準備及補給萬般ニ關スル諸施設諸準備ノ改善増
強ニ力ヲ致シ之ヲ整備スルト共ニ深く術科教育ニ傾キ用ヒ多數ノ管下各
學校ニ對シ適切ナル指導ヲ爲シタル功績顯著ナリ要之同官ハ至誠努力ヲ以
テ一貫シ終始研鑽ヲ怠ラズ明瞭セル識見ト判斷力ト正確豐富ナル智識トヲ
以テ常ニ常人ノ企圖シ得ザル所ニ着眼シテ部内ノ先覺者トナリ現帝國海軍
ノ有形無形ノ實力涵養向上ニ資セル所懽メテ大ナリ加フルニ同官ハ謙嚴高

潔ニシテ徳望部内ニ普ク其ノ致セル衝力向上並ニ精神振作ノ功績ハ甚ニ卓
拔ノモノニ有之候處今因特ニ思召ヲ以テ可然賜杯ノ恩典ニ浴セシメラレ度
右謹テ奏ス

昭和二十年一月一日

海軍大臣 米内光



履歴書

坂内閣顧問海軍大將從二位勳一等末次信正

明治十三年六月三十日生

明治三十三十六 海軍兵學校卒業

海軍少尉候補生任命

三四、一、一八 任海軍少尉

三五、十、六 任海軍中尉

三七、七、十三 任海軍大尉

四三、十、十一 任海軍少佐

大正三、十一、一 任海軍中佐

七、十一、一 任海軍大佐

補筑摩艦長

十九、九、二七 一〇、三、二二 合議長列全權委員隨員被仰付

内閣

大正十二、十二、一 任海軍少將

補第一海軍水戰隊司令官

十五、七、二六 補海軍省教育局長

昭和二、十二、一 任海軍中將

補海軍軍令部次長

五、十一、一 補舞鶴要港部司令官

六、十一、三 金杯一個ヲ賜フ倫敦海軍條約締結ノ功

十二、一 補第三艦隊司令長官

八、十一、十五 補聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官

九、十一、九 致勳一等ヲ授瑞寶章

三、十一、一 任海軍大將

三、十一、三 致從三位

四、十一、九 授旭日大綬章 昭和六年乃至九年軍功

七、十一、十五 補橫須賀鎮守府司令長官

昭和十、十三、六、補軍中参議六位

十二、四、一、正三位

十五、豫備役被仰付

十五、内閣参議被仰付

十三、十四、任内務大臣

十四、一、五、依願、内閣参議被免

十四、一、五、依願、免本官

一、三〇、内閣参議被仰付

十五、一、二三、依願、内閣参議被免

十九、十、二八、内閣参議被仰付

十九、十三、二九、从二位 特旨

十七、七、二九、兼去

内閣